

## 「中津川小学校の俵踊り伝承活動の取組」

### 1 学校名

さつま町立中津川小学校

### 2 学年・人数

3年生から6年生（計25人）

### 3 日時・場所

#### (1) 練習の日時・場所

令和2年9月9日～9月30日（平日 17:30～18:30） 校庭・体育館

#### (2) 発表の日時・場所

令和2年10月1日（木） 大石神社での奉納

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

#### (1) 名称

俵踊り（たわらおどり）

#### (2) 由来

昔は社寺等の落成式や祭典には催し物としてよく相撲（勸進相撲）が行われた。その際、寄進されたものを土俵上に積んで見物客に披露し、謝礼の意を表した。当時の寄進は大部分が米であったので、化粧まわしを締めた関取が相撲甚句を唄いながら円陣形をとって踊り、土俵祭りが済むと、飾ってあった米俵をリレー式に外に出した。この米俵を運ぶ格好を舞踊化したものが、俵踊りとして北方町地区に伝承されてきた。

#### (3) 構成等

もんぺ姿に豆絞りを頭に巻き、ラグビーボール大の俵を全員が持ち、唄、三味線、太鼓の音に合わせ、20人前後で踊る。唄は5番まであり、1番は二列縦隊、それ以外は、ほぼ円陣形で踊る。

米俵を積み上げる所作は、寄進された品に対する謝礼の意を表していると考えられている。

### 5 保存会や地域との連携の具体

中津川区・学校・保護者で構成する「中津川文化財少年団」があり、俵踊りを中津川区全体の郷土芸能の一つとして、正式に位置付けている。北方町のお師匠さんの全面的な支援の下、学校が事務局となり、俵踊りを伝承していく体制が整っている。

### 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域、保護者が連携協力しながら俵踊りを継承していくために、事務局である教頭が、地域・保護者との連絡・調整役に当たっている。また学校でも、俵踊りを学習教材の一つとして総合的な学習の時間で扱ったり、「中津川文化財少年団」の活動を準教育活動として位置付けたりして、職員の協力も十分得られていることで、今後も継続して俵踊りを伝承していける体制が整っている。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



大石神社での奉納の様子

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

### 【6年生児童】

- ・ 今年が最後の俵踊りだったのに、金吾様踊りが中止と聞いていたのでとても残念だったが、披露することができてよかった。たくさんの人が見に来てくれてうれしかった。

### 【教職員】

- ・ 毎年思う、「地域の方の俵踊りへの情熱」を今年も感じる事ができた。保護者も子供の頃から経験してきていることもあり、とても協力的で、ふるさとの郷土芸能を通して、生まれ育っている地域への誇りや愛着を子どもに育みたいという願いが根底にあるように思われる。子供たちには、練習が始まる前に、総合的な学習の時間を使って、俵踊りの歴史について学習したり、前年度の動画を見せたりしたことで、俵踊りへの思いを高めるようにしている。子供たちがお師匠さん方の指導を真剣に聞き、本番で真剣に踊っている姿に感動した。

### 【北方町のお師匠さん】

- ・ 毎年だが、子供たちの毎日練習を頑張る姿にこちらが元気をもらえる。金吾様踊りが中止になったが、子供たちのこれまでの頑張りを、なんとか披露したかった。発表する機会を得られて本当によかった。

### 【地域の方から】

- ・ 新型コロナウイルスの関係で金吾様踊りが中止になり残念だったが、こうやって子供たちの踊る姿を見ることができて嬉しかった。